

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年10月13日
【四半期会計期間】	第99期第2四半期(自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
【会社名】	株式会社歌舞伎座
【英訳名】	KABUKI-ZA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安孫子 正
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号
【電話番号】	直通03(3541)5572
【事務連絡者氏名】	経理部長 岡谷 直人
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号
【電話番号】	直通03(3541)5572
【事務連絡者氏名】	経理部長 岡谷 直人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第98期 第2四半期 連結累計期間	第99期 第2四半期 連結累計期間	第98期
会計期間	自 2021年3月1日 至 2021年8月31日	自 2022年3月1日 至 2022年8月31日	自 2021年3月1日 至 2022年2月28日
売上高 (千円)	1,207,834	1,243,256	2,469,768
経常損失( ) (千円)	43,375	23,230	102,387
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失( ) (千円)	89,484	54,299	153,187
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,468,502	54,984	1,498,094
純資産額 (千円)	11,108,496	11,073,116	11,078,904
総資産額 (千円)	25,248,307	25,055,546	25,048,201
1株当たり四半期(当期)純損失( ) (円)	7.38	4.48	12.64
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.0	44.2	44.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	138,170	123,983	100,685
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,084	11,929	17,328
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	24,745	59,698	24,460
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,429,827	1,464,825	1,412,470

回次	第98期 第2四半期 連結会計期間	第99期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年6月1日 至 2021年8月31日	自 2022年6月1日 至 2022年8月31日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	3.09	1.52

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。  
また、関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について、今後の状況により当社の事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前第2四半期連結累計期間と収益認識に関する会計処理の方法が異なることから、以下の経営成績に関する説明の売上高については、前年同四半期比（％）を記載せずに説明しております。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済社会活動の正常化が進み、企業収益も改善の兆しが見られる一方で、新型コロナ感染の第7波、原材料価格の上昇の影響を注視する等、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のもと、当社グループにおきまして、食堂における座席数の制限、客席・ロビーでの食事禁止などの感染症対策を継続しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,243,256千円（前年同四半期は1,207,834千円）、営業損失は43,734千円（前年同四半期は営業損失53,243千円）、経常損失は23,230千円（前年同四半期は経常損失43,375千円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は54,299千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失89,484千円）となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、従来 of 会計処理方法によった場合に比べ、売上高は140,786千円減少しております。営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失への影響はありません。

これをセグメント別にみると、不動産賃貸事業については、売上高は930,140千円（前年同四半期は944,599千円）、セグメント利益は324,106千円（前年同四半期比4.2%減）となりました。

食堂・飲食事業については、関連施設の営業自粛が少しずつ緩和されたことから、売上高は132,199千円（前年同四半期は70,282千円）、セグメント損失は64,934千円（前年同四半期はセグメント損失75,997千円）となりました。

売店事業については、7～8月の歌舞伎公演の一部が休演となったことから、劇場関連施設での販売機会が減少し、厳しい状況が続きました。売上高は180,917千円（前年同四半期は192,952千円）、セグメント損失は37,631千円（前年同四半期はセグメント損失57,475千円）となりました。収益認識会計基準等の適用により、従来 of 会計処理方法によった場合に比べ、売上高は140,786千円減少しております。セグメント損失への影響はありません。

#### 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,345千円増加し、25,055,546千円となりました。

##### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ75,106千円増加し、1,589,667千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加、及び売掛金の増加であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ67,761千円減少し、23,465,879千円となりました。主な要因は、有形固定資産の減価償却等による減少225,739千円、及び投資有価証券の時価評価による増加157,516千円であります。

##### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ113,879千円増加し、801,292千円となりました。主な要因は、未払金の増加、買掛金の増加であります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ100,746千円減少し、13,181,138千円となりました。主な要因は、流動負債に振替えたことによる長期前受金の減少、投資有価証券を時価評価したこと等による繰延税金負債の増加であります。

##### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,788千円減少し、11,073,116千円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金の増加であります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末から変わらず44.2%となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ52,355千円増加し、1,464,825千円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は123,983千円となり、前連結会計年度(前年同四半期は138,170千円の増加)との比較では14,187千円の減少となりました。主な資金の増加要因は、減価償却費227,358千円、仕入債務の増加33,079千円、主な資金の減少要因は、長期前受金の減少146,404千円、法人税等の支払額41,290千円であります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は11,929千円(前年同四半期は3,084千円の減少)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出11,888千円があったことによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は59,698千円(前年同四半期は24,745千円の増加)となりました。これは主に配当金の支払額59,524千円があったことによるものであります。

#### (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更はありません。  
また、新たに生じた課題はありません。

#### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年10月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,170,000	12,170,000	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数 100株
計	12,170,000	12,170,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年6月1日～ 2022年8月31日	-	12,170,000	-	2,365,180	-	2,405,394

(5) 【大株主の状況】

2022年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
松竹株式会社	東京都中央区築地4-1-1	1,665	13.73
清水建設株式会社	東京都中央区京橋2-16-1	1,047	8.64
みずほ信託銀行株式会社 退職給付 信託 松竹口 再信託受託者 株式会社日本カスト ディ銀行	東京都中央区晴海1-8-12	446	3.68
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (退職給付信託 松竹口)	東京都港区浜松町2-11-3	446	3.68
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	230	1.89
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂5-3-6	150	1.23
株式会社フジ・メディア・ホール ディングス	東京都港区台場2-4-8	150	1.23
日本テレビ放送網株式会社	東京都港区東新橋1-6-1	150	1.23
株式会社三越伊勢丹	東京都新宿区新宿3-14-1	115	0.94
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	115	0.94
計	-	4,514	37.24

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 50,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,071,700	120,717	-
単元未満株式	普通株式 48,200	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	12,170,000	-	-
総株主の議決権	-	120,717	-

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己保有株式23株が含まれております。

【自己株式等】

2022年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社歌舞伎座	東京都中央区銀座4-12-15	50,100	-	50,100	0.41
計	-	50,100	-	50,100	0.41

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年6月1日から2022年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年3月1日から2022年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新創監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年 2月28日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2022年 8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,412,470	1,464,825
受取手形及び売掛金	17,720	40,765
棚卸資産	1 32,849	1 30,518
その他	51,662	53,558
貸倒引当金	142	-
流動資産合計	1,514,561	1,589,667
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,163,845	7,954,466
土地	6,220,163	6,220,163
その他（純額）	98,385	91,966
有形固定資産合計	14,482,393	14,266,595
無形固定資産		
借地権	2,613,299	2,613,299
施設利用権	6,458	5,913
ソフトウェア	4,988	3,913
ソフトウェア仮勘定	4,400	4,400
無形固定資産合計	2,629,145	2,627,526
投資その他の資産		
投資有価証券	5,922,659	6,080,176
長期前払費用	412,053	404,192
その他	87,388	87,388
投資その他の資産合計	6,422,101	6,571,757
固定資産合計	23,533,640	23,465,879
資産合計	25,048,201	25,055,546



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年 2月28日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2022年 8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	58,105	91,185
未払金	93,161	177,027
未払法人税等	57,435	52,456
前受金	403,579	413,297
賞与引当金	19,192	20,214
その他	55,939	47,111
流動負債合計	687,413	801,292
固定負債		
長期未払金	98,490	98,490
長期前受金	11,735,970	11,589,566
繰延税金負債	1,281,549	1,323,070
退職給付に係る負債	79,985	84,236
長期預り保証金	85,887	85,774
固定負債合計	13,281,884	13,181,138
負債合計	13,969,297	13,982,430
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,365,180	2,365,180
資本剰余金	3,264,975	3,264,975
利益剰余金	3,687,045	3,572,146
自己株式	222,111	222,284
株主資本合計	9,095,089	8,980,016
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,983,815	2,093,099
その他の包括利益累計額合計	1,983,815	2,093,099
純資産合計	11,078,904	11,073,116
負債純資産合計	25,048,201	25,055,546

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
売上高	1,207,834	1,243,256
売上原価	984,946	1,004,488
売上総利益	222,888	238,768
販売費及び一般管理費		
人件費	169,433	165,933
賞与引当金繰入額	10,389	9,819
退職給付費用	2,571	3,069
租税公課	16,390	15,989
減価償却費	2,360	2,530
その他	74,986	85,159
販売費及び一般管理費合計	276,131	282,503
営業損失( )	53,243	43,734
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	2,316	2,038
受取保険金	-	12,520
助成金収入	4,659	1,605
その他	4,188	4,670
営業外収益合計	11,170	20,841
営業外費用		
固定資産除却損	873	0
その他	429	337
営業外費用合計	1,302	337
経常損失( )	43,375	23,230
税金等調整前四半期純損失( )	43,375	23,230
法人税、住民税及び事業税	23,950	37,781
法人税等調整額	22,157	6,711
法人税等合計	46,108	31,069
四半期純損失( )	89,484	54,299
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	89,484	54,299

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
四半期純損失( )	89,484	54,299
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,379,018	109,284
その他の包括利益合計	1,379,018	109,284
四半期包括利益	1,468,502	54,984
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,468,502	54,984

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失( )	43,375	23,230
減価償却費	228,448	227,358
貸倒引当金の増減額( は減少)	5	142
賞与引当金の増減額( は減少)	2,321	1,022
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	3,753	4,251
受取利息及び受取配当金	2,322	2,044
固定資産除却損	873	0
売上債権の増減額( は増加)	1,024	23,045
棚卸資産の増減額( は増加)	3,217	2,331
仕入債務の増減額( は減少)	6,116	33,079
助成金収入	4,659	1,605
長期前受金の増減額( は減少)	146,404	146,404
長期預り保証金の増減額( は減少)	285	113
未収消費税等の増減額( は増加)	34,315	-
未払消費税等の増減額( は減少)	12,764	13,769
その他	29,049	103,935
小計	112,287	161,624
利息及び配当金の受取額	2,322	2,044
法人税等の支払額	2,265	41,290
法人税等の還付額	20,769	-
助成金の受取額	5,056	1,605
営業活動によるキャッシュ・フロー	138,170	123,983
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,784	11,888
有形固定資産の除却による支出	300	41
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,084	11,929
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の処分による収入	84,251	-
自己株式の取得による支出	-	173
配当金の支払額	59,389	59,524
その他	116	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,745	59,698
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	159,831	52,355
現金及び現金同等物の期首残高	1,269,995	1,412,470
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,429,827	1 1,464,825

## 【注記事項】

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、連結子会社の売店事業における劇場内及び附帯施設の売店での物販等、従来、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していた取引のうち、連結子会社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る対価から仕入先等の取引先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は140,786千円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益には影響ありません。また、利益剰余金の当期期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「前受金」の一部は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」とし、「流動負債」の「その他」に含めております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

## (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 1 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
商品及び製品	27,512千円	25,186千円
原材料及び貯蔵品	5,336千円	5,332千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
現金及び預金	1,429,827千円	1,464,825千円
現金及び現金同等物	1,429,827千円	1,464,825千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月27日 定時株主総会	普通株式	60,514	5	2021年2月28日	2021年5月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月26日 定時株主総会	普通株式	60,599	5	2022年2月28日	2022年5月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	不動産 賃貸事業	食堂・飲食 事業	売店事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	944,599	70,282	192,952	1,207,834	-	1,207,834
セグメント間の内部売上高 又は振替高	46,490	104	2,474	49,069	49,069	-
計	991,089	70,387	195,427	1,256,903	49,069	1,207,834
セグメント利益又は損失( )	338,422	75,997	57,475	204,949	258,193	53,243

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 258,193千円は、セグメント間取引消去 11,018千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 247,174千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	不動産 賃貸事業	食堂・飲食 事業	売店事業	計		
売上高						
一時点で移転される財又はサービス	-	132,199	180,917	313,116	-	313,116
一定期間にわたり移転される財又はサービス	11,082	-	-	11,082	-	11,082
顧客との契約から生じる収益	11,082	132,199	180,917	324,199	-	324,199
その他の収益	919,057	-	-	919,057	-	919,057
外部顧客への売上高	930,140	132,199	180,917	1,243,256	-	1,243,256
セグメント間の内部売上高 又は振替高	58,623	400	75	59,099	59,099	-
計	988,763	132,600	180,992	1,302,356	59,099	1,243,256
セグメント利益又は損失( )	324,106	64,934	37,631	221,540	265,274	43,734

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 265,274千円は、セグメント間取引消去 8,895千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 256,379千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)に基づく賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、報告セグメントの利益または損失の算定方法を同様に變更しております。当該変更により売店事業の売上高は140,786千円減少しておりますが、セグメント損失に与える影響はありません。不動産賃貸事業及び食堂・飲食事業についての影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
1株当たり四半期純損失( )	7円38銭	4円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	89,484	54,299
普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	89,484	54,299
普通株式の期中平均株式数(株)	12,117,470	12,119,898

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年10月12日

株式会社歌舞伎座  
取締役会 御中

新創監査法人  
東京都中央区

指定社員  
業務執行社員

公認会計士

柳澤 義一

指定社員  
業務執行社員

公認会計士

松原 寛

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社歌舞伎座の2022年3月1日から2023年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年6月1日から2022年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年3月1日から2022年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社歌舞伎座及び連結子会社の2022年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) １．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。